

『映画 新生児外科』の制作について

今から50年前、1963年頃は日本では小児外科について一般の人々の関心は非常に少なく、医療の領域でも新生児外科を御存知ない先生方が非常に多い状態でありました。

従って我が国での小児外科の必要性を理解して頂く為に、熱心な啓蒙運動が必要でありました。

そのためには新生児外科の映画を作成するのもよいのではないかと思っていたところ、幸いに当時新生児医療に情熱を持っておられたエーザイ製薬KKがスポンサーとなって頂いて『映画－新生児外科』が制作されたのです。撮影場所は私が新生児外科を始めました東京墨田区にあります社会福祉法人、賛育会病院です。

(当時第二次世界大戦で戦災にあったままの、現在からは到底考えられない位、お粗末な手術室でありました。)

この映画は日本の小児麻酔のパイオニアであられた故岩井誠三先生、故里吉光子先生を始め、当時賛育会病院で小児外科に従事しておられた先生方の素晴らしい御協力、英映画KK、エーザイ製薬KKの御努力により完成したのです。

尚、この映画の作成に際しまして、我が国での小児外科の発展の重要性を認識しておられた故福田保先生(順天堂大学外科教授)、故木本誠二先生(東京大学第二外科教授)より力強い御支持を頂きました事も深く感謝致しております。

『映画－新生児外科』は我が国の各地で上映され、日本の小児外科の発展に役に立ったのではないかと思います。またこの映画を通じて日本の小児外科の近年の目覚ましい進歩を知る事が出来るのではないのでしょうか。

また私が1964年アフリカ、ウガンダ国マッケーレ大学を招待講演者として訪問した際、この映画を上映し、好評で、その後この映画は東南アジア、南米、北米、欧州の多くの国々で上映されたのです。

(音声－英語、スペイン語)